

Our Innovation History — オリンパスのDNA —

オリンパスは、1919年に顕微鏡の国産化を目指し創立しました。それから約30年後には、世界初の実用的な胃カメラの開発に成功しました。最初の製品を世に送り出してから今日に至るまで、社会に向けて新しい価値を創造するというDNAは受け継がれています。

外科



1975
医療用硬性
内視鏡分野に参入

1979
硬性鏡メーカー
Winter & Ibe GmbH社
を買収

医療製品

消化器内視鏡

撮る

診る

治す

「早期がん発見への第一歩」

「診断と治療への貢献」

「生検からスタート」



1950
世界で初めて実用的な
胃カメラを開発



1964
ファイバースコープ付き
ガストロカメラ「GTF」
発売



1966
当社初の「生検用スコ
ープおよび「処置具（生検
鉗子・細胞診ブラシ）」
発売



1982
世界初の超音波内視鏡
システム「GF-UM1 /
EU-M1」誕生



1985
ビデオ内視鏡システム
「EVIS-1」誕生
(ビデオスコープ化)

世界初の実用的な胃カメラを開発

「日本人に多い胃がんを何とか治したい」という東大第一内科の医師と当社技術開発陣との共同開発で胃カメラ実用化に成功。ファイバースコープの登場で胃の中を直接リアルタイムで見ることが可能となり、その後も医師と二人三脚で改良し消化器疾患の診断術が飛躍的に発達。

外科事業への参入

内視鏡が外科治療にも使われることを想定し、1979年にドイツの硬性鏡メーカー Winter & Ibe GmbH社を買収、外科内視鏡分野に本格的に進出。

医療事業の進化の歴史

科学・映像製品

1920



当社初の顕微鏡
「旭号」発売

1936



当社初のカメラ
「セミオリンパス」発売
(カメラ事業に参入)

1963



世界初のハーフサイズ
一眼レフカメラ
「オリンパスペンF」発売

1968



当社初の工業用
ファイバースコープを
発売(工業用内視鏡分野
に参入)

1969



世界初の
マイクロカセット
レコーダーを開発

1983



世界初のオートフォーカス
機能搭載の最高級写真
顕微鏡New VANOX
「AH2」発売

創業と経営近代化への道 1919年-1950年代

- 1919** 「株式会社高千穂製作所（顕微鏡の国産化を目的）」として創立
- 1921** 商標を「オリンパス」として登録
- 1949** 社名を「オリンパス光学工業」と改称
東京証券取引所に株式上場



創業者 山下 長



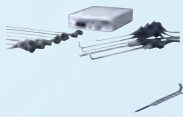
商標「オリンパス」

光学総合メーカーへの発展、 海外販売拠点の拡充 1960年代-1980年代

- 1964** 欧州現地法人設立
- 1968** 米国現地法人設立
- 1979** カリフォルニア州に米国拠点設立
(現北米最大の医療修理サービス拠点)
- 1989** 中国北京市に駐在事務所、シンガポールに
現地法人設立

医療事業の多角化 1990年代-2010年

- 2001** テルモ(株)と提携
- 2004** Celon AG社買収
- 2008** 中国(上海)に初の
トレーニングセンター設立
- 英国Gyrus Group PLC社を
買収(医療事業における
外科分野を強化)



2002
統合ビデオシステム
「VISERA」、超音波手術
システム「SonoSurg」
発売



2006
内視鏡統合ビデオシス
テム「VISERA Pro」発売



2011
外科用ビデオ内視鏡シ
ステム「VISERA ELITE」
発売



2012
世界初のハイボラ
高周波と超音波の統合
エネルギーデバイス
「THUNDERBEAT」
発売



2013
外科手術用
3D内視鏡システム、
世界初の先端湾曲
3Dスコープ発売



2015
4K技術搭載の外科手術
用内視鏡システム
「VISERA 4K UHD」
発売



2002
世界初のハイビジョン
内視鏡システム
「EVIS LUCERA」発売



2002
世界初のESD専用処置具
「ITknife (ITナイフ)」を
商品化



2006
NBI搭載のビデオ
スコープシステム
「EVIS EXERA II」、
「EVIS LUCERA
SPECTRUM」発売



2010
膵胆管の内視鏡治療用
ディスプレイガイド
ワイヤG「VisiGlide™」
発売



2012
消化器内視鏡の次世代
基幹システム「EVIS
EXERA III」、
「EVIS
LUCERA ELITE」発売



2016
超音波内視鏡下穿刺吸引
術向けディスプレイ
吸引生検針「EZ Shot 3
Plus」発売

ビデオスコープで新時代へ

先端部に撮像素子であるCCDを組み込んだビデオスコープの開発により、画像をテレビモニターに表示し、複数の医療従事者が観察状況を共有可能に。診断の精度が飛躍的に向上。

「内視鏡外科手術」の発展

外科の世界に「革命」をもたらした内視鏡外科手術は、技術的な進展により普及が加速。HD画像の内視鏡や、高周波と超音波を同時出力する世界初の外科手術用エネルギーデバイス、3Dや4Kの外科内視鏡等、革新的な製品を順次投入。

特殊光観察で「光を診る」時代へ

世界初のハイビジョン化の実現や光学的手法で病変部を強調して映し出す技術「NBI(狭帯域光観察)」の開発等、技術的な進展が加速。内視鏡は観察だけではなく、治療や処置の役割も果たす医療機器として進化。

1996



当社初のデジタルカメラ
「CAMEDIA C-800L /
C-400L」発売

2006



非破壊検査機器
「OmniScan iX」発売

2009



当社初のミラーレス一眼
「OLYMPUS PEN E-P1」
発売

2012



倒立顕微鏡IX3シリーズ
発売

2013



ミラーレスのフラッグ
シップ機「OLYMPUS
OM-D E-M1」発売

経営再建ステージから持続的発展ステージへ

2011年-現在

2011 過去の損失計上の先送り発覚
2012 新経営体制が発足
中期経営計画(中期ビジョン)
発表
ソニー(株)との業務・資本提携
情報通信事業を譲渡

2013 東京証券取引所による当社
株式の「特設注意市場銘柄」の
指定解除
海外市場での資金調達
(約1,100億円)
ソニー・オリンパスメディカル
ソリューションズ(株)設立
中国(広州)に当社最大の
トレーニング・サービスセンター
設立

2014 バイオロジクス事業から撤退
2015 分社を統合し、マトリックス型の
組織体制へ移行

2016 医療用内視鏡関連の開発・製造
拠点(会津・白河・青森)を増強
(新棟竣工)
新中期経営計画「16CSP」発表